

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1 部 2 年 2 部 2 年	子どもの理解と援助	緒方 玲子	
サブタイトル	子どもの心身の発達と保育実践	単 位 数	1
授業形態	演習		
開講時期	前期	出席要件	4 / 5 以上
到 達 目 標			
保育者の専門性として、一人一人の子どもの内面を理解し、信頼関係を築き、発達に必要な経験を子ども自らが獲得していけるような援助が求められている。その基礎となる「子ども理解」について、事例を通し、乳幼児の発達過程や個人差に応じた保育実践を行うことができる力を身につける。 1. 子どもの実態に応じた発達や学びを理解することができる。 2. 子どもを理解する視点（子どもの生活や遊び、人的環境としての保育者の役割等）について考察することができる。 3. 発達の課題に応じた保育者の援助と関わりについて理解することができる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
教育目的「専門職に関する知識・技能及び表現力を身に着ける」また「多様な協働学習を通して、豊かな人間性を身に着けている」に関連づけられる科目である。			
授 業 の 方 法			
1. 子どもの理解と援助 の基礎用語・プラスワンについて学び、ワークシートを完成する。 2. 演習課題を個人またはグループで実施し、発表する。 3. 事例を含む演習課題におけるグループ討議、フィードバックをもとに理解を深める。			
テキスト・教材・参考図書			
『子どもの理解と援助 演習ブック』松本 峰雄監修 伊藤雄一郎他著 ミネルヴァ書房 2021 年 『幼保連携認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド本社 2017 年 その他、適宜ハンドアウトを配布する。			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
グループ学習・発表への貢献度、演習課題とワークシートの提出、学期末試験の総合で成績評価を行う。		学期末試験	50%
		演習課題・ワークシート	30%
		グループ討議・発表	20%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
コクヨノート(コクヨ、キャンパスノート B5 プリントが切らずに貼れるサイズ)を使用する。 ・欠席者への配布物は、すみやかに実施し、提出をする。 ・公認心理師、臨床心理士としての実務経験を活かし、子どもの心身の発達と保育実践について、わかりやすく解説します。グループでの活動に主体的に参加しましょう。			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1 回	ガイダンス 保育における「子ども理解」の意義	本授業の学び方の理解、 子ども理解とは
2 回	子どもに対する共感的理解と保育 1. 保育における共感的理解 2. 子どもの理解に基づく養護および教育の一体的展開	共感的理解・養護と教育 の一体的展開への理解
3 回	子どもの生活と遊び 1. 子どもの生活と基本的生活習慣 2. 子どもの遊びとは 3. 保育における「生活や遊び」	基本的生活習慣・生活や 遊びへの理解
4 回	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 1. 子どもの発達と保育者という人的環境の関係性 2. 子どもの発達に寄り添う保育者の適切ななかかわり	子どもの発達と保育者 (人的環境)の関係性への 理解
5 回	子どもの集団での経験と育ち 1. 子どもの集団での関わり 2. 子どもの育ちにつながる関わり	子どもの集団での関わり 、育ちにつながる関り への理解
6 回	発達における葛藤やつまずき 1. 保育における葛藤・つまずき・いざこざ 2. 事例から見る葛藤・つまずき・いざこざへの支援	子どもの葛藤やつまず きと保育者の支援理解
7 回	保育の環境の理解と構成 1. 保育の環境 2. 子どもの理解を踏まえた環境の構成および再構成	保育の環境構成・再構成 への理解
8 回	環境の変化や移行 1. 子どもの環境の変化や移行 2. 環境の変化や移行からの適応と保育者の援助	環境の変化や移行から の適応と保育者の援助 理解
9 回	子どもを理解するための観察・記録・省察・評価 1. 子どもを理解する為の方法（観察・記録・省察・評価） 2. 子どもを理解し続けることの重要性	子どもを理解する方法 （観察・記録・省察・評 価）への理解
10 回	子ども理解のための職員間の対話 1. 職場における人間関係 2. 円滑なコミュニケーションの構成要素	職場における人間関係・ 円滑なコミュニケーション への理解
11 回	子ども理解のための保護者との情報共有 1. 保護者と保育者の連携 2. 保護者同士の連携	保護者との情報共有・保 護者同士の連携につい ての理解
12 回	発達の課題に応じた援助と関わり 1. 発達課題 2. 乳幼児期の発達と保育	乳幼児期の発達課題と 発達に応じた保育への 理解
13 回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助 1. 特別な配慮を要する子どもの理解 2. 発達障害の子どもの理解 3. インクルーシブ保育	特別な配慮を要する 子ども・インクルーシブ 保育への理解
14 回	発達の連続性と就学への支援 1. 発達の連続性 2. 幼小接続への連携 (保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園から小学校)	発達の連続性・幼小接続
15 回	子どもの理解と援助 まとめ	「子どもの理解と援助」 理解とまとめ
	定期試験	